

徳田さん、加藤さん、大野さんの陶芸



永年保存が決まった作品と作者の徳田吉美さん、加藤捷信さん、大野繁保さん(左から)＝多治見市本町、東濃信用金庫本店

徳田さんの「器 加飾技法 漆蒔」は現在では廃れた漆蒔上絵の鮮やかな色を配したカップや皿のクラフトで、模様が幾何学的でモダンな作品。

加藤さんの「静寂」は、焼締め磨きによる「茶室の庭先などにある石の手水鉢」をイメージした作品で、独特の表情を醸し出し、存在感がある。

大野さんの「灰釉花器」は、釉薬を二重にかけ、白と透明部分のコントラストが美しく、シンプルな形の中に柔らかさが伝わる。

多治見市本町の同金庫本店で発表会が行われ、選定委員長の加藤幸兵衛さんは「個性あ

東濃信金 成果上げる作家選定

東濃信用金庫の「美濃陶芸作品永年保存事業」の本年度選定作品が24日発表され、徳田吉美さん(59)＝名古屋市中区、加藤捷信さん(71)＝土岐市下石町、大野繁保さん(47)＝同市妻木町」の3作品が選ばれた。(高木俊徳)

3作品新たに永年保存

ふれ、ここ近年着実に成果を上げている3人の作品を選んだ」と説明した。

3作品は、4月から1年間、同市虎渓山町のとうしん学びの丘エールに展示される。1987年にスタートした同事業は、同金庫が作品を買い上げて保存。30回目の本年度の3作品を加え、永年保存は89点になった。